

中期目標期間(平成19年度~平成24年度)
事業報告書

平成25年6月
北海道公立大学法人札幌医科大学

目 次

1 大学の概要

(1) 大学名	1
(2) 所在地	1
(3) 役員の状況	1
(4) 学部等の構成	1
(5) 学生数及び教員数	2
(6) 沿革	3
(7) 建学の精神	4
(8) 理念	4
(9) 行動規範	4
(10) 中期目標（平成19年度～平成24年度）（基本目標）	4

2 中期目標期間における業務全体の実施状況

(1) 中期目標期間全体の状況	5
(2) 中期計画項目別の状況	8
第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	8
第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置	10
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	11
第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	11
第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	12

3 その他の主な実績

(1) 教育	13
(2) 研究	16
(3) 社会貢献	17
(4) 附属病院	18
(5) 国際交流	19

1 大学の概要

(1) 大学名

北海道公立大学法人札幌医科大学

(2) 所在地

北海道札幌市中央区南1条西17丁目

(3) 役員の状況（平成25年4月1日現在）

理事長	島本 和明（学長）
副理事長	平山 和則
理事	黒木 由夫（医学部長）
理事	乾 公美（保健医療学部長）
理事	平田 公一（附属病院長）
理事	白崎 賢治
監事	小寺 正史
監事	山本 剛司

(4) 学部等の構成（平成25年4月1日現在）

①学部等

医学部	医学科
保健医療学部	看護学科 理学療法学科 作業療法学科
医療人育成センター	

②大学院

医学研究科	医科学専攻 [修士課程] 地域医療人間総合医学専攻 [博士課程] 分子・器官制御医学専攻 [博士課程] 情報伝達制御医学専攻 [博士課程]
保健医療学研究科	看護学専攻 [博士課程前期・後期] 理学療法学・作業療法学専攻 [博士課程前期・後期]

③助産学専攻科

④附属病院（平成25年4月1日現在）

診療科数	26科
中央診療部門等	16部門（高度救命救急センター、医療連携・総合相談センター、臨床研修センター含む）
病床数	938床
室数	273室

⑤その他の附属施設等（平成25年4月1日現在）

附属総合情報センター
附属産学・地域連携センター
医学部附属フロンティア医学研究所
医学部教育研究機器センター
医学部動物実験施設部

（5）学生数及び教員数（平成25年4月1日現在）

学部学生	1,022人
大学院生	298人
研究生	119人
訪問研究員	115人
留学生	8人
教員数	384人
職員数	1,156人

(6) 沿革

本学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に、戦後の新制医科大学第一号の医学部医学科の単科大学として開学した。

その後、平成5年には札幌医科大学衛生短期大学部（昭和58年開学）を発展的に改組することにより、保健医療学部として開設し、本道で唯一の公立医科系総合大学として発展してきた。

この間、医師をはじめとする多くの医療人を育成するとともに、先進医学・保健医療学の研究や高度先進医療の提供、さらには地域への医師派遣等を通じて、北海道の医療・保健・福祉の向上に大きく貢献してきた。

平成19年4月には、新たな理念及び行動規範を掲げ、理事長のリーダーシップの下、最高レベルの医科大学を目指して、北海道公立大学法人札幌医科大学として新たに出発した。

平成20年10月には、新たな教育組織として、教養教育と専門教育（医学及び保健医療学）の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成することを目的に、医療人育成センターを開設した。

平成22年には、開学60周年（創基65周年）を迎え、「記念講演会」（道民公開講座）等、様々な取組により、これまでの本学の歩みや今後の方針等について、広く情報発信を行った。

平成23年4月には研究機能の強化を図るため、医学部附属がん研究所等の研究部門を再編し、医学部附属フロンティア医学研究所を設置した。

また、平成24年4月には、創造性に富み人間性豊かな助産師の育成を行い、北海道の母子保健の発展と充実に貢献することを目的に助産学専攻科を開設した。

(7) 建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

(8) 理念

最高レベルの医科大学を目指します

- ・人間性豊かな医療人の育成に努めます
- ・道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
- ・国際的・先端的な研究を進めます

(9) 行動規範

1. 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
2. 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
3. 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
4. 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
5. 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
6. 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
7. 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

(10) 中期目標(平成19年度～平成24年度)(基本目標)

1. 創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献する。
2. 進取の精神の下、世界水準の研究を推進し、国際的な研究拠点の形成を目指す。
3. 高度先進医療の開発・提供を行い、本道の基幹病院としての役割を果たす。
4. 健康づくり、疾病予防の視点に立った総合的な地域医療支援ネットワークの形成に努める。
5. 最新の研究・医療に関する情報の地域社会への提供やより一層の産学官連携を進め、研究成果の社会還元を努める。
6. 国際交流を推進し、国際的医療・保健の発展に寄与する。

2 中期目標期間における業務全体の実施状況

(1) 中期目標期間全体の状況

法人化のメリットを活かした大学運営

平成19年度の法人化後、これまでの道からの予算や組織上の制約が緩和され、学長のリーダーシップの下、意志決定の迅速化や企業会計の導入、第三者による評価、情報公開の徹底による透明性の向上等を図り、法人化のメリットを最大限に活用した自主・自律的で効率的な大学運営に取り組んだ。

道立の医科大学としての役割の発揮

「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」の建学の精神の下、将来の北海道の地域医療を担う医療人の育成、地域医療の向上に寄与するため、世界にも通用する研究の推進や道内唯一の高度救命救急センター等の機能を備えた附属病院での高度医療の提供、研修医等の確保が困難な状況の中でも、本学として最大限、地域への医師派遣等を実施し、法人化後も、道立の医科大学としての役割を果たすべく様々な取組を行った。

外部評価等を踏まえた運営

平成19年度の法人化後、「年度評価」及び「中期目標達成状況等評価（中間評価）」や教育研究に関する「認証評価」を第三者評価機関から受け、法人の自己点検・評価と併せて課題の明確化を図り、次年度計画や第2期中期計画に反映させ、取組の改善や充実を図った。

<教育・研究>

- 高い倫理観と教養を備えた医療人の育成を目的に医療人育成センターを開設し、「地域密着型チーム医療実習」等、多職種連携による地域医療教育等を推進し、また、臨床実習教育プログラムを段階的に改編する計画（「地域包括型診療参加臨床実習」）を立案し、平成24年度に文部科学省支援事業「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」に採択された。
- 医学部定員増の実施及び道内勤務等を条件とする「特別推薦枠」、「北海道医療枠」の設置により、地域医療を担う学生の確保・育成に取り組んだ。
- 医学部、保健医療学部における国家試験合格率において、全ての職種で全国平均を上回り、特に看護師は10年連続合格率100%（看護系大学全国1位）を達成した。

- 大学院医学研究科においてがんプロフェッショナル養成プランを開始し、臨床腫瘍医学領域を設置したほか、博士課程に「臨床医学研究コース」を開設した。さらに、保健医療学研究科に専門看護師コース（精神看護、小児看護）を開設した。
- 地域の母子保健を守る助産師の育成のため、助産学専攻科を開設した。
- 研究機能強化のため、がん研究所、教育研究機器センター等を再編し、フロンティア医学研究所を設置した。
- 進行消化器がん患者に対するがんペプチドワクチン及び細胞製剤を用いた神経再生医療について、医師主導型治験を開始するなど、先端医科学研究成果の医療への活用を推進した。
- 産学連携の推進や奨学を目的に企業からの寄附金により3つの寄附講座（緩和医療学講座、分子標的探索講座、生体工学・運動器治療開発講座）を設置した。
- 国等からの資金により神経再生医学講座を特設講座として設置したほか、北海道地域医療再生計画に基づき、3つの特設講座（オホーツク医療環境研究講座、道民医療推進学講座、南檜山周産期環境研究講座）を設置し、道民の医療・保健・福祉に関する社会的要請の高い研究へ取り組んだ。

<附属病院>

- 高度な先進医療を推進するため、最新のMRI、CTの導入をはじめ、ハイブリッド手術室の整備や手術支援ロボットの導入等に取り組んだ。
- 治験管理室に薬剤部等のスタッフを加えた治験センターを設置し、さらに医師主導型治験に向けた体制強化に取り組んだ。
- 院内物流管理システム（SPD）の活用による医療材料・医薬品の適正管理等、病院運営の効率化を図った。
- 病棟クレーンを配置し、医師、看護師の負担軽減を図った。
- 企業等の支援によるロビーコンサートをはじめとする、利用者サービスの向上に取り組んだ。

＜社会貢献＞

- 地域の医療体制確保のため、「地域医療支援センター」を設置し、医師確保が困難な地域に教員派遣を行うなど、公的医療機関への医師派遣を積極的に実施した。
- 中国の佳木斯（ジャムス）大学や韓国カトリック大学との交流協定締結等、研究者、臨床実習生の派遣・受入を行うなどの国際交流に取り組んだ。
- 自治体等からの健康活動等に関する審議委員や講師派遣依頼への積極的な対応や、他大学や企業等と連携した健康に関する公開講座やテレビ、ラジオ等による研究事例発表等の社会還元に向け取り組んだ。

＜業務運営・財務内容の改善＞

- プロパー職員採用、外部資金活用による職員採用等、機動的・弾力的な組織運用及び中期的視点による大学運営に取り組んだ。
- 附属病院において機動的に人員配置を行い、病院運営及び患者サービス向上に取り組んだ。
- 財務情報等の集約・分析による大学経営の改善、特に附属病院における経営指標（KPI）を設定し、目標達成に向けた取組による大幅な収支改善等、財務基盤の強化を図った。
- 財務諸表、業績評価結果の公表等、積極的な情報公開による説明責任及び大学運営における透明性の一層の確保に向け取り組んだ。
- 施設整備の方向性や、各施設の必要機能を示した「札幌医科大学における施設整備の基本計画」を策定し、道の「札幌医科大学施設整備構想」策定へ繋げた。

＜自己点検評価等＞

- 競争的資金申請件数減少に対する評価を踏まえ、次年度計画において対応策を講じ、その増加を図るなど、評価結果に対する反映・改善に取り組んだ。
- これまでの評価結果を反映し、第2期中期計画策定に際して、本学の特色や役割の明確化及び評価の充実・効率化の観点から目標達成に必要な取組に絞り込み、項目数の整理（削減）を行ったほか、数値指標について第1期を上回る16項目を設定するとともに、その水準の維持・向上を図った。

(2) 中期計画項目別の状況

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

○学士課程におけるカリキュラムの充実

医学部において、平成22年度から新カリキュラムを導入、保健医療学部においても、大幅なカリキュラム改正を行い、平成24年度入学者から適用した。

また、平成20年度から、両学部合同の「地域医療合同セミナー」と「双方向医療コミュニケーション概論」を開講し、地域医療教育の充実を図った。

○大学院課程の充実

医学研究科で平成19年度にがんプロフェッショナル養成プランを開始し、がん治療に対する臨床腫瘍医学領域を設置したほか、平成20年度に博士課程に「臨床医学研究コース」を開設した。

保健医療学研究科に専門看護師コース（精神看護、小児看護）を開設した。

○入学者選抜方法の検討

医学部では、平成20年度入試から、本学卒業後、一定期間道内の地域医療に従事する意志を有する者を対象とした「特別推薦選抜制度」を導入し、また、平成25年度入試から、一般入試に道内で医学・医療に従事する医師を養成するための「北海道医療枠」を設置した。

保健医療学部では平成22年度から後期日程を廃止して推薦入試を導入した。

○「医療人育成センター」の設置

平成20年度に「医療人育成センター」を開設し、両学部の教養教育及び一貫した入試選抜業務の実施並びに全学的な見地から教育活動全般についての企画・実施・検証・改善を行う体制を構築した。

○チーム医療のための効果的な体験学習の推進

両学部合同で実施している「地域密着型チーム医療実習」や「地域医療合同セミナー」について、平成20年度からカリキュラムに組み込んで実施し、地域医療合同セミナーについては、両学部1学年から4学年までの積み上げ式の一貫教育として取り組み、平成24年度からは両学部2学年において地域滞在型の実習を導入し、体験学習の拡充を図った。

○他大学院との単位互換性の検討

平成21年度に道内5大学で修士課程の大学院生を対象とした共通プログラムによる単位互換認定協定を締結した。

○助産学専攻科における臨床教育・実習体制の整備

平成24年度に地域の母子保健を守る助産師の育成のため、助産学専攻科を開設し、附属病院のほか全道14施設において助産学実習を行う体制を整備した。

○基礎研究・臨床研究の推進

ヒト癌ワクチンについては、平成24年8月から治験を開始し、脳梗塞患者に対する自家培養骨髄間葉系幹細胞の静脈内投与による細胞療法については、平成25年3月から治験を開始した。

○医学部附属研究所の再編

平成22年度に医学部附属研究所について、そのあり方を検討し、新たに「フロンティア医学研究所」として再編した。

○公的医療機関等に対する人的・技術的支援

平成21年度に「地域医療支援センター」を設置し、緊急的な医師派遣要請や地域医療機関からの診療支援要請の対応に取り組んだ。

○総合情報センターの充実

平成19年度から図書館を24時間開館するとともに、蔵書・文献の検索システムの機能充実や文献データベースの拡充を図った。

○国際交流の促進

平成19年度に中国の佳木斯（ジャムス）大学と新たに交流協定を締結したほか、平成20年度に学術交流協定を締結している中国医科大学と新たに学生交流協定を締結した。さらに、平成23年度には韓国カトリック大学と交流協定を締結し、臨床実習を相互に行うなど、国際交流を促進した。

○治験の推進体制の整備・充実

質の高い効率的な治験管理を行うため、平成19年度に従来の治験管理室に薬剤部等のスタッフを加えた「治験センター」を設置し、さらに医師主導治験に向けた体制を強化した。

○病院経営の改善

経営指標（KPI）を設定の上、病院運営会議等で進捗状況を報告し、病院長のリーダーシップの下、経営改善に取り組んだ結果、大幅な収支改善を達成した。また、平成23年度に「病院経営・管理部」を設置し、病院経営に関わる情報を一元的に把握し、企画立案できる体制を構築した。

○病院運営の効率化

医師、看護師の事務負担を軽減し、事務の効率化を図るため、平成20年度から病棟クラークを配置した。

第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

○大学運営体制の整備

役職員が、法令や社会的規範を遵守した活動を行うため、平成19年度に「北海道公立大学法人札幌医科大学役職員倫理規程」を整備し、倫理研修を行った。

また、機動的で効率的な大学運営の体制を整備するため、役員会、経営審議会及び教育研究評議会の定例開催や臨時開催を行い、迅速で的確な意思決定を行った。

○教員任期制の導入

教員の教育や研究活動等を一層活性化することを目的として、平成20年度から「教員の任期制及び評価制度」を導入した。

○事務職員等の多様な採用制度の導入

事務職員については、平成19年度からプロパー職員や外部資金を活用した職員等の様々な雇用形態の職員採用を行ったほか、人材育成を図るため、法人職員としての基礎知識の習得を目的とした研修や、接遇・会話技法、倫理研修を実施するとともに、公立大学協会主催の研修等へも参加した。

○職員の適切な評価制度の導入

職員の勤務実績を踏まえた評価制度としての「勤勉手当に係る勤務実績評価制度」を導入し、平成22年12月期の勤勉手当から実施した。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

○財務内容の改善による運営費交付金の縮減

診療収入の増加や経費節減に取り組み、収入総額の増加及び運営費交付金の縮減を図った。これにより、計画目標（運営費交付金依存率の平成18年度比5ポイント縮減）を上回る成果を達成した。

※平成18年度運営費交付金依存率：26.2%

平成24年度運営費交付金依存率：17.7%

（平成18年度比8.5ポイント縮減）

○法人が保有する施設の活用

学生・患者等の利便性の向上を図るため、平成19年度に大学においては、学内書店の拡充、附属病院においてはコーヒーショップ及びコンビニエンスストアを新設した。

また、大学シンボルマークを使用したオリジナルグッズや附属病院ホームページでのバナー広告掲載を開始する等、施設の有効活用を図った。

第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

○自己点検・自己評価の実施

平成19年度から自己点検・評価を全学的に実施し、その自己点検・評価委員会等の開催状況及び検討内容をホームページで公表したほか、平成21年度に報告書を刊行し、関係者への周知を図った。

○情報公開の推進

教育・研究・診療・社会貢献の活動状況等を、親しみの持てる内容で道民に提供するため、平成20年度及び平成23年度にHBCと共同でテレビ番組「医の1BAN!」を製作・放送したほか、北海道新聞社との連携・協力に基づくフォーラムを共同開催した。

平成21年度に本学ホームページに新管理システム（CMS）を導入し、全面的なリニューアルを実施した。

また、平成23年度から包括連携協定を締結している北洋銀行の全面支援による、ラジオ番組「医の力～札幌医科大学 最前線～」の放送を開始した。

第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

○施設整備基本計画と長期保全計画の策定

平成19年度に本学の施設整備の方向性や、各施設の必要機能を示した「札幌医科大学における施設整備の基本計画」を策定したほか、現有施設の適切な保全や機能維持を図るための「札幌医科大学施設長期保全計画」を策定した。

○ファシリティマネジメントの取組・推進

「札幌医科大学施設長期保全計画」に基づき、計画的に施設の修繕工事を実施するとともに、省エネルギー対策の取組を積極的に進めるため、平成20年度、平成21年度に省エネ改修工事を実施し、平成22年度からE S C O事業を本格的に開始した。

3 その他の主な実績

(1) 教育

① 学士課程

創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献することが中期目標にも掲げられているところであり、すべての職種の国家試験において、全国平均を上回る合格率となった。

<医師>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
受験者(人)	109	106	101	104	107	108
合格者(人)	103	102	95	100	97	100
合格率(%)	94.5	96.2	94.1	96.2	90.7	92.6
(全国平均合格率)(%)	90.6	91.0	89.2	89.3	90.2	89.8

<看護師>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
受験者(人)	48	52	55	52	50	49
合格者(人)	48	52	55	52	50	49
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(全国平均合格率)(%)	90.3	89.9	89.5	91.8	90.1	88.8

<保健師>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
受験者(人)	47	53	55	51	52	49
合格者(人)	46	53	54	50	50	49
合格率(%)	97.9	100.0	98.2	98.0	96.2	100.0
(全国平均合格率)(%)	91.1	97.7	86.6	86.3	86.0	96.0

<理学療法士>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
受験者(人)	21	18	23	21	22	18
合格者(人)	21	18	23	20	22	18
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	95.2	100.0	100.0
(全国平均合格率)(%)	86.6	90.9	92.6	74.3	82.4	88.7

<作業療法士>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
受験者(人)	21	21	24	24	22	20
合格者(人)	19	19	23	22	22	20
合格率(%)	90.5	90.5	95.8	91.7	100.0	100.0
(全国平均合格率)(%)	73.6	81.0	82.2	71.1	79.7	77.3

② 大学院課程

医学・医療に関する高度な知識と技術に支えられ、国際的に通用する研究人材の養成や、地域における高度・専門職業能力を有するリーダーとなる人材を養成することを目標として、教育・研究指導体制の改善・充実に取り組んだ。

学位授与者数（人）	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
医学研究科 （課程博士）	38	31	29	30	35	45
医学研究科 （論文博士）	30	21	17	4	7	8
医学研究科 （修士）	—	—	7	8	9	8
保健医療学研究科 （修士）	19	18	14	17	14	16
保健医療学研究科 （博士）	5	3	4	7	4	3

③ 助産学専攻科

母子保健の充実と発展に貢献できる人材を養成することを目標として、教育カリキュラムの効果的な展開に取り組んだ。

<助産師>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
受験者（人）	—	—	—	—	—	19
合格者（人）	—	—	—	—	—	19
合格率（%）	—	—	—	—	—	100.0
（全国平均合格率）（%）	—	—	—	—	—	98.1

④ 道内出身者の入学状況

地域医療に貢献する医療人の育成を目指し、平成20年度から、道内高校の卒業生を対象に、医学部卒業後、一定期間道内の地域医療に従事する意志を有する者を対象とした特別推薦選抜制度を導入した。また、平成22年度から保健医療学部では後期日程を廃止して推薦入試を導入した。

<医学部>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
全入学者数(人)	100	105	110	110	110	110
道内出身入学者数(人)	73	77	82	75	75	68
一般入試(人)	53	49	47	43	40	33
一般推薦(人)	20	20	20	20	20	20
特別推薦(人)	—	8	15	12	15	15
道内出身比率(%)	73.0	73.3	74.5	68.2	68.2	61.8

<保健医療学部>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
全入学者数(人)	99	93	90	90	90	90
道内出身入学者数(人)	96	84	84	88	89	88
一般入試(人)	96	84	84	73	73	75
一般推薦(人)	—	—	—	15	16	13
道内出身比率(%)	97.0	90.3	93.3	97.8	98.9	97.8

⑤ 研修医の状況

平成16年度以降、多くの研修医が大規模一般病院で初期研修後に、そのまま臨床研修を続けることが多いことから、大学病院の勤務医師数が減少した。

このため、本学大学院では、平成20年度から医学研究科に臨床医学研究コースを整備し、大学院在籍のまま大学附属病院での臨床及び地域医療を経験するプログラムを設けるなど、魅力ある実質的な大学院の構築に努めた。

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
初期研修者数(人)	36	47	43	52	32	35
後期研修者数(人)	77	71	58	79	70	77

⑥ 道内への定着率

地域医療への貢献を建学の精神に掲げた教育により、卒業生の多くが道内に在住している。

<医学部>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
初期臨床研修者数(人)	99	96	90	91	92	92
道内在住者数(人)	75	72	76	77	70	74
道内在住比率(%)	75.8	75.0	84.4	84.6	76.1	80.4

<保健医療学部>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
就職者数(人)	74	78	83	80	76	77
道内在住者数(人)	68	75	73	73	65	59
道内在住比率(%)	91.9	96.2	88.0	91.3	85.5	76.6

<両学部計>	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
道内在住比率(%)	82.7	84.5	86.1	87.7	80.4	78.7

※医学部は、本学を卒業した初期臨床研修者、保健医療学部は、本学卒業生で就職した者のうち、道内在住者の割合を示している。

(2) 研究

① 外部資金の獲得

研究資金等の確保のため、科学技術研究費補助金、受託研究費の受入や奨学寄附金の獲得に努めた。

・科学技術研究費補助金申請件数

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
文科省科研費申請件数	310	312	300	279	278	322
対18年度比(%)	109.1	109.9	105.6	98.2	97.8	113.4
※中期計画目標値 (24年度)(%)						110.0

② 寄附講座・特設講座の設置・運営

寄附講座として、株式会社アインファーマシーズの支援による「緩和医療学講座」、日東電工株式会社の支援による「分子標的探索講座」、バイオメット・ジャパン株式会社及びスミス・アンド・ネフュー オーソペディックス株式会社の支援による「生体工学・運動器治療開発講座」の3つの講座を設置し、研究を推進した。

また、特設講座として、平成20年度から「神経再生医学講座」を、平成22年度から北海道地域医療再生計画に基づき、「オホーツク医療環境研究講座」、「道民医療推進学講座」、「南檜山周産期環境研究講座」の3講座を設置し、道民の医療・保健・福祉に関する社会的要請の高い研究を推進した。

(3) 社会貢献

高度先進医療の提供を行う本道の中核的医療機関として、道、関係機関との連携を深め、地域社会への貢献に取り組んだ。

① 地域医療連携室の実利用医療機関数

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
実医療機関数(機関)	425	449	488	523	505	528
増加割合(%)	137.5	145.3	157.9	169.3	163.4	170.9
※中期計画目標値 (24年度)(%)						120.0

② 公開講座、出前講座件数

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
公開講座等(件)	24	36	55	32	39	50
出前講座(件)	5	8	9	7	8	9
計	29	44	64	39	47	59
対18年度比(%)	120.8	183.3	220.7	162.5	195.8	245.8
※中期計画目標値 (24年度)(%)						130.0

③ 共同研究、受託研究実施件数

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
共同研究（件）	13	15	21	17	20	19
受託研究（件）	200	272	273	355	346	363
計	213	287	294	372	366	382
対18年度比（%）	102.4	137.9	141.3	178.8	175.9	183.7
※中期計画目標値 （24年度）（%）						120.0

（4）附属病院

ハイブリッド手術室の整備や手術支援ロボットの導入等、安全安心な医療を提供する体制の整備や、残食調査・嗜好調査の実施による給食の充実等、患者サービスの充実を図るとともに、自立的経営を目指し、運営の改善及び効率化を進めた。なお、年間延べ患者数及び手術件数実績に関しては以下のとおりである。

① 年間延べ患者数（人）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
外来	469,830	478,149	483,396	494,480	496,150	484,961
入院	281,163	270,018	272,206	279,923	283,974	287,882

② 手術件数（件）

19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
6,870	6,594	6,598	6,801	6,895	7,286

(5) 国際交流

① 国際医学交流

本学では、北方圏諸国の諸大学の医学研究者との相互派遣による学術交流を積極的に進め、北海道をはじめ北国に住む人々の健康と福祉の発展を目指している。

昭和52年以降、フィンランド、カナダ、中国、アメリカの各大学と交流協定を結び、研究者の派遣・受入交流を行っている。

平成11年度から学生が国際的な視野を広げ、将来の活動の基礎を築くことをねらいとし、カナダアルバータ大学での語学研修が行われているほか、中国医科大学、韓国カトリック大学と学生の臨床実習を行っている。

・語学研修者数（人）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
アルバータ大学	8	9	中止	10	8	8

・臨床実習者数（人）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
中国医科大学						
派遣	—	—	中止	2	2	中止
受入	—	—	2	2	2	2
韓国カトリック大学						
派遣	—	—	—	—	2	2
受入	—	—	—	—	2	2

② 国際貢献

平成19年度から平成21年度に受け入れていたJICA地域別研修については、平成22年度から平成24年度までの3年間、引き続き「仏語圏アフリカ母子保健」コースとして受け入れることとし、交流を進めている。

・JICA仏語圏アフリカ母子保健人材育成研修の受入状況（人）

19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
8	7	8	9	8	9